

総合問題(5)

複数テキスト①

演習問題A

次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は、Aさんのクラスで「事実と言語表現」について探究レポートを書くときに参考にしたものである。これらを読んで、後の設問に答えよ。なお、解答の際に、【文章Ⅰ】の「構造化」と【文章Ⅱ】の「再構成」など、表記の異なる語については、どちらの表記でもよいものとする。

【文章Ⅰ】

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40

35

30

25

20

(注) 問主観的な…人々の間で共有されている。

(野家啓一「物語の哲学」による)

あえかな…美しく、はかなげな様子。

【文章Ⅱ】

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25

20

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(小浜逸郎「日本語は哲学する言語である」による)

35

30

問一

線①「このような歴史学者のことを、小林秀雄は『一種の動物に止まる』と喝破した」とあるが、小林秀雄が「一種の動物」と指摘した理由として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア あらゆる歴史的出来事をくまなく、それが起こった瞬間にありのままに描写することは、一般的な人間にできることではないから。

イ ありのままの過去の事実を残そうとしないで、思い出ばかりを記述しようとするあり方は、人間の歴史を消滅させることだから。

ウ 過去の出来事を網羅し正確に記述しようとすることは、起こったことを記憶するだけになり、回顧する余裕がなくなってしまうから。

エ 太古から現在に至るあらゆる出来事を正確に記述しているだけであり、人から人へ伝えるという行為を念頭に入れていないから。

「 」

問二

線②『「記憶」と『思い出』との対比』とあるが、筆者はこれらをどのようなものにとらえているか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 記憶も思い出も過去の出来事であるが、その経験の印象が強烈なものが思い出で、他は記憶である。

イ 記憶は膨大で正確な過去の出来事であり、思い出は個人的で理想的な過去の出来事の再現である。

ウ 記憶は統一的な筋のある過去の出来事の羅列であり、思い出は断片的で個人的な過去の記憶である。

エ 記憶は過去の出来事を網羅したものであり、思い出は記憶から取捨選択された個人的な感慨である。

問三

線③「深い感動を味わった」とあるが、それはどのような経験といえるか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア そこに存在するものすべてが、同時にはかなく情緒的な世界に没入するような経験。

イ 全身を包む身体感覚であり、自分を含む空間が一体化され、時間を超越するような経験。

ウ これまで生きてきた長い時間が、一瞬に凝縮しつながっていくという、奇跡的な経験。

エ 自分と自分を含む空間との混沌とした融合の瞬間を、五感全体で感じる刺激的な経験。

問四

線④「さてあなたはその感動を言葉で表現しようと思ったとします」とあるが、「感動を言葉で表現」するために必要なものについて説明した次の文の [A]・[B] に入る言葉を、それぞれ十字以内で答えよ。

感動は [A] であるため、[B] なしでは、伝えることができない。

A

B

問五

【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】を読んで「物語ること」について、Aさんのクラスで話し合った。次の(1)・(2)の問いに答えよ。

(1) Aさんは「歴史的事実」が成立する条件を次のようにまとめた。

[X] に入る言葉を二十五字以内で答えよ。

思い出

← 物語る

言葉によって脈絡を補うことで、[X] される

歴史的事実(解釈的事実)の成立条件

(2) 次に示す生徒たちの話し合いの [Y] に入る発言として最も適当なものを後のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

生徒B — 【文章Ⅱ】の最後に「言葉は世界経験を伝達する使命をもっている」とあるね。歴史的事実も言葉がないと伝えることができないんだね。

生徒A — 【文章Ⅰ】では、事実の羅列だけでは、出来事と出来事をつなぐ脈絡がないから、言葉によって「物語る」必要があると書いてあったよ。

生徒C — でも、言葉は [Y] から、その言語規範にしたがって伝えることになるね。

生徒D — じゃあ「物語ること」とは、出来事と出来事をつなぐ脈絡を示して、言語の規範にしたがって伝えるということになるのかな。

ア 時間の経過にしたがって、ラインを引くように語ることしかできないという制約がある

イ 時間に沿って、因果関係を明確にし、起承転結の構造を示すという

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

85 80 75 70 65 60

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

115 110 105 100 95 90

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(田中克彦「クレオール語と日本語」による。一部表記を改めた。)

(注) ハンコク：イアン・ハンコック。イギリス生まれの言語学者(一九四二～)。

バイカル湖：ロシア、シベリア南東部にある大淡水湖。

J・ホルム：ジョン・ホルム。アメリカ生まれの言語学者(一九四三～二〇一六)。

ワリワン、カメヤ・ピジン：西洋人と接触した日本人が、「ホワット・ドゥー・ユ

ー・ウオント」を「ワリワン」と、「カム・ヒヤ」を「カメヤ」と表記した事

例を言っている。

ライネツケ：ジョン・ライネツケ。アメリカ生まれの言語学者(一九〇四～一九

八二)。

アドリア海：地中海の一部で、イタリア半島とバルカン半島に囲まれる海域。

はじめのところで述べた：全ての言語は混成によって発展してきたという説を紹介

介したことを指す。

シューハルト：フーゴ・シューハルト。ドイツ生まれの言語学者(一八四二～一

九二七)。

イディシユ語：ユダヤ人がドイツ語を簡略化して作った言語。

カスピ海：ロシア、トルクメニスタン、カザフスタン、アゼルバイジャンとイラ

ンに囲まれた塩湖。

エカテリーナ女帝：ロシアの女帝(一七二九～一七九六)。

パトワ：フランス語で、「方言以下の言葉」という意味。蔑称。

問一 次の表における「公用語」および「口語」にまつわる説明として最も適当なものを、次の各群のA～Cから、それぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ピジン・クレオール言語の扱い

【公用語】

ハイチ共和国

セーシェル共和国

パプアニューギニア独立国

中央アフリカ共和国

バヌアツ共和国

【口語】

マルチニク

グアドループ

レユニオン島

ハワイ

アメリカ合衆国ルイジアナ州

公用語

A その地域が公用語にピジン・クレオール語を用いることとその地域が独立国であることには関連性がある。

I その地域が自治領か独立国かによって、ピジン・クレオール語のステイタスは大きく変化することになる。

U その地域が本国の一部である場合、ピジン・クレオール語の正統性は、本国からの承認によってのみ保たれる。

E その地域がイギリス領であるという事実によってのみ、ピジン・クレオール語の地位は高められることになる。

O その地域が独自の文化・伝統を所有している場合、ピジン・クレオール語のステイタスは高くなる傾向にある。

口語

A ピジン・クレオール語は、その地域がフランス領である場合においてのみ、低いステイタスに置かれることになる。

I 独立した国家でない地域においては、ピジン・クレオール語の重要性は、マスコミ以外の分野では低くなる。

U 宗主国からの独立を果たしていない場合、ピジン・クレオール語の使用は異常なことと考えられ、社会的禁忌となる。

E 本国の領土の一部である場合、その地域で話されるピジン・クレオール語は低い地位しか得ることができない。

O パトワとしてのピジン・クレオール語を日常で用いることは、本国からの独立を勝ち取る契機となりうる。

問二 図1にまつわる説明として最も適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 図の中に確認される個々の点は世界におけるピジン・クレオール語の分布のあり方を表しているが、その配置は徹底した言語学的調査を踏まえた、極めて正確なものとなっている。

イ 日本には二つの点がついているのが確認されるが、今の研究者たちの間では、かつて日本に存在したピジン・クレオール語は、すでに消滅してしまっているという説が有力である。

ウ 図においては空白の地域も多く、したがってピジン・クレオール語が世界中にまんべんなく確認できるわけではなく、それらがある特定の地域に偏在しているということがわかる。

エ 図中の点のついていないところは、ヨーロッパ文明の先進性を象徴するようなすぐれた言語を受容してこなかった、言語的、したがって文化的に遅れた、頑迷な閉鎖地域であると言える。

オ ヨーロッパにもいくつか点が認められるが、これは、世界規模の文化間格差だけではなく、ヨーロッパの中にも限っても、多様な言語間における様々な格差が存在するという事実を表している。〔 〕

問三 図2「J・ホルムの図」を筆者はどのような目的で引用しているか。四十文字以内で説明せよ。

問四 「ピジン語」や「クレオール語」はどのような言語と捉えられるか。文章全体に即したまとめとして適当なものを次のア～カから二つ選び、記号で答えよ。

ア いろいろな段階があるために正確な数が確定できない言語。
イ 土台となる方言の違いによって様々な様相を持ちうる言語。

ウ 各地の母語と仏語か英語が混成されることで作られた言語。
エ 独自性を主張する価値もないような俗でみすばらしい言語。
オ 国語や公用語となることが約束された将来性に満ちた言語。
カ 公的なものへと高められていく可能性のある興味深い言語。〔 〕

問五

ことばにおける「伝統と歴史」について、日本語という観点から議論した場合、文章全体を踏まえて成り立つ意見はどれか。最も適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 他のことばとの接触によって影響をこうむることを避けられないのがことばの宿命ではあるが、ことばというものが民族のアイデンティティの核を為す以上、先人たちの遺したくれた日本語の伝統と歴史に関しては、その継承者たる我々日本人が、是が非でも保守していかなくてはならない。非常に変化し続けていくことを余儀なくされているものがことばである以上、いつまでも先人たちが用いていた日本語の表現にこだわるのはナシセンスだが、しかしながらことばの流行性をもし全面的に肯定したならある種の混乱も生じてしまうため、せめて学術の分野だけでも、伝統的な日本語を用いるべきである。

ウ 我々日本人が先祖から脈々と継承してきた由緒正しい日本語も、ピジン・クレオール語として構築されていく新たな日本語も、どちらも言語体系としての価値は同等だから、どちらかに固執することなく、両者をうまく使い分けて共生させていくことこそが、我々日本人の務めとなる。
エ 先人たちが用いてきた日本語の表現をそのままに継承し、ただひたすらに維持していくというような教条主義的態度よりも、他の言語との接触、交流を経て、ピジン・クレオール語の多様な体系が日本の中にも構築されていくことのほうが、積極的な意義を有していると言える。

オ 幕末や戦後には、他の言語との接触を避けることができなかつたために例外的にピジン・クレオールの現象が見られたが、島国であり植民地支配もまぬかれてきた日本は、先祖伝来の言語を基本的には維持してきた国であり、そこにこそ日本語の特質を見いだすことができる。〔 〕